令和5年度第2回あわらし郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：令和6年2月20日（水）

午後1時30分から

場 所：金津本陣 IKOSSA 3階

市民文化研修センター研修室1

（次第）

1. 文化学習課長 あいさつ

2. 議題

（1）令和6年度郷土歴史資料館事業の計画について

3. 報告

（1）令和5年度郷土歴史資料館事業報告について

4. その他

（出席委員）

水野 和雄 吉田 純一 長野 栄俊
宇都宮 高栄 能美 進 寺井 玲子
荒木 秀子

（欠席委員）

なし

（事務局）

文化学習課長 早見 孝枝 郷土歴史資料館館長 松永 都美
郷土歴史資料館副館長 九千房 英之 郷土歴史資料館 車谷 航

【文化学習課長あいさつ】

（令和5年度郷土歴史資料館事業について事務局より報告）

委員：文化財調査の進捗は、現在どのような状況か。

事務局：文化財保存活用地域計画という現在進行中の計画の中で、未指定文化財とかの掘り起こしを行い、その周知、各住民の意識調査を行っている。どの地域にどのようなものが大切にされているのか、それからこういったものがここにあるよっていうのを教えていただ

き、それを活用計画の方に盛り込む予定となっている。

委員：内容的には、もちろん私が知らないものもあり、各地域によって大切にされているものはそれぞれというのは感じるところがある。しかし、その地域外のことは容易に知ることができない状況にある。調査した結果を地域の公民館で公民館のチラシに入れるなど、フィードバックしてほしい。

事務局：今回の調査結果の報告については、活用計画が終わった後にすこしずつ皆さんのところにフィードバックしていきたいと考えている。

委員：昨年の畝畦寺写真展について。これは観客数から観覧も、圧倒的に多い。これはそのまま資料館の入場者数の7、8月のここにも繋がっているはずだと思うんですけども。このように極端に多いのは何か理由があるのか。

事務局：理由は複数考えられる。一つは、数年ぶりに金津祭が制限なしで開催された関係で入館者数が増加したこと。もう一つは、北野さんの発信力である。かなり遠くの方が来館され、なかにはドイツからの来館もあった。今回、作家さん個人の発信力があつたように感じられる。また北野氏は、一乗谷とか越知山など、信仰に関係する写真などをおもに撮影されており、それがすごく好評である。今回館として、何か情報提供と新たな発信の方法とかそんなことを特別やったということではない。従来どおりのホームページ等々の発信である。

委員：常設展が随分と変更されている。しかし、それが外に周知されていない。

事務局：今、まだこれからちょっと大幅に変更する予定にはなつて参りますのでさらに、そういうことがまたすぐに周知をしていきたい。

委員：以前は横山古墳群に関する展示があつた。

委員：いつの間にか全部変わつてしまつている。展示内容が新たに変更されたのであれば、しっかり周知しないとイケない。

事務局：このあと説明するが、今年度は縄文時代から平安時代まで、展示物それからパネルや内容なども、大幅にリニューアルする。来年度には、鎌倉時代以降も早急にリニューアルしたいと考えている。

委員：リニューアルすることについても周知しないとイケないのではないかな。

委員：関連して、本陣飾り物の展示が2基変わったのであれば、たとえば二階に上がったところにきたところに、新たに入れ替えましたという案内を置いた方がよいのではないかな。

事務局：検討します。

委員：けつ状耳飾りづくり体験と書いてあるが、本来はけつ条耳飾りだけで資料館が1つ建つぐらい大きなものである。いつ行つてもある程度は、けつ状が見学できるというぐらいのここのメインにしなければいけない。

事務局：特別展示室で展示する必要がある。

委員：特別展示室が保存であり、展示であるというように位置づけなければならない。この資料館の展示は、桑野遺跡で持つてるようにしなければいけない。

事務局：けつ状耳飾りの展示について問い合わせを受けることはよくあるので、それに対応

するために今回レプリカ作成事業を行った。常設展示の方にレプリカ大体 30 点ほどを展示するように考えている。また残りのレプリカ一部を触れ合いの方に展示して、資料館への誘導としたい。それから石製のものもあるので、体験教室などでいろんな人に触ってもらいながら、質感とか、それから大きさとかを体験してもらおう。ということで、この事業をは通じてけつ状耳飾りの体験を考えている。特別展示室は、動線上の関係もあり、常にオープンすることはできない状況になっているので、レプリカの方で対応していきたい

委員：けつ状をどうやって使ったのか、モデルにつけるとかして提示ぐらいしないと素人だからわからない。

事務局：それを含めてレプリカを作成した。クラウドファンディングを導入した。

委員：レプリカをもとにけつ状耳飾り体験をやるというのは方法を考えたほうがいいと思う。やはり本物と触れさせてあげるべきだ。

委員：けつ状耳飾りは本当に「耳飾り」として使用されていたのか。

事務局：一応耳飾りというふうには言われている。ただし耳飾りだけ一応ネックレスのように使用したという説もある

委員：耳飾りをどういうふうに使われていたのか、とくに子どもたちには、それが必要。

事務局：今度リニューアルする各時代のパネルで必ずイラストを入れるようにしている。その各時代の風景を提示する。縄文時代のイラストでは、耳飾りを付けた人が人々に指導しているようなシーンを入れるようにして、耳飾りなどの使用をイメージできるようにしている。

委員：考証は別として、けつ状耳飾りなどを身に着けたマネキンを置いた方がいい。

委員：素人からすると、せっかくけつ状耳飾りをみても使い道や背景など具体的なことが知りたい。それに子どもたちとしたら、実証やら、利用者とかという専門的な説明ではハードル高いのではないか。なので考証が不十分でもイラストパネルを導入すべきだ。

委員：イラストを示して「こんなふうを使う」とか説明するとか。

委員：まずいつ来てもけつ状耳飾りを見ることができるようにして、それからどういう状況のものなのかわかりやすい解説を充実させるべきだ。劣化分析そのものの、今写真もページの方では、専門的すぎてハードルが高い。桑野遺跡のことが特別展示室の中ですべてわかる構成にしないといけない。

事務局：桑野遺跡専門の部屋をつくれるか否かについては、かなり難しい問題なので、常設展示の方で極力そのレプリカの展示などでわかりやすく、見てもらえるようにしていきたいと考えている。

委員：けつ状耳飾りは 80 点あるので、例えば 20 点ずつ出して年 4 回展示すればいい。

委員：やはりけつ状耳飾りは何点かだけでもいつ行っても本物が展示されているのが望ましい。展示期間について何十日以上は出してはいけないという制約があるが、そもそもこの建物は桑野遺跡のけつ状耳飾りを周知するために、特別に作ったところである。収蔵施設であり、展示施設であるというスタンスでいるべきだ。

事務局：開館当初は企画展も特別展をやってなかった。全部（現在の特別展示室含めて）、いわゆる常設展っていう状態で開館している。今のような、ある程度規模の伴った企画展とかをすることになった段階で、特別・企画展開催期間以外で、特別展示室までの空間を通過して入る導線に現在になっていない。その関係で、現在、特別展示室が常設展示では使えないという形になっている。開館当初から構造自体変えてしまっているの、その点が難しいところとなっている。通常、何も無いところに来館者を通して、特別展示室に行くことは難しい。そのあたりは今後の課題だが、今話にあったようにけつ状をもっといろんな世代に見て欲しいという思いは同じなので、今後考えていきたい。

（１）令和６年度郷土歴史資料館事業の計画について

（事務局説明）

委員：あわらの方に寄贈された藤野家文書は、ずっと文書館の方に寄託されていた。しかし、こんな立派な収蔵施設があるのに県に預けてるのがどうかという話をしていた。今回、あわら市に返却されることとなった。

藤野巖九郎だけではなくて、藤野家３代に関するいい資料があり、県から、大阪大学適塾センターの方に協力の依頼をした。来年度阪大で藤野家の展示が行われる。当然そこで専門で研究されてる方がやっていくので、ある程度の調査をやっていただける。その研究成果をもとに、いいとこ取りしてでも、ぜひあわら市で展示をされるとよいのではないかと。

外国からの来館者もあり、とくに中国からも来られるので。藤野先生は、中国の方にとってみたらそれなりのネームバリューもある。温泉地区の方でもあの藤野巖九郎記念館はあるが、そこと違った切り口で迫れるといいと思う。

事務局：できればこちらとしても、（藤野巖九郎は）地域の歴史的人物の一人ですので、藤野展はぜひ行いたいと考えている。

委員：常設展示の見直しについて説明してほしい。

事務局：例えばパネルとしましては、タペストリーでその時代のイメージする、イラストとその他時代の解説をする。またその時代象徴する文化財を必ずパネルに各時代１枚ずつ配置して統一した形にする。その下に考古資料などの現物資料を展示したい。極力現物を近い状態で見させていただくというふうな形にしたいというふうに思っている。

委員：普通、常設展示というのはあんまり１０年なり、２０年に１回変えていくものである。

事務局：おそらく今までの中で一番大きなリニューアルになる。ただ、展示物に関しては、ボチボチと実は１年に１ヶ所ずつぐらい何かこう入れ替えをしている。やはり常設もうチーム化してしまうことが多いので、なるべく１台ずつちょっとずつ展示入替をしていたが、今言った通りパネルとか、そういったものが非常に不ぞろいなものも多いため、これだけだと市の歴史がわかりにくいっていうのが、課題としてあった。市の歴史ストーリーがわかってもらえるような、今回大幅リニューアルと

いう形になります。

委員：横山古墳群なんかパネルから何かね。今全然なくなってしまっている。行政のとらえ方としてどういう形にしたらいいのかなという。

委員：確かに、各時代キーとなる展示物ってのは多分、必ずあったほうがいいと思う。

例えば古墳時代では今話に出たように横山古墳群になるし、縄文時代であればさっき言った玦状飾りとかにあると思う。

事務局：そこは多少の入れ替えだったとしても必ず展示として、どこかにあるような形にさせていただく。ただし、同じものを展示し続けるといつ来てもおんなじだっていうイメージになってしまう。その他の部分で入れ替えられるものはちょっとずつ入れ替えるというような方針でやっていきたいと考えている。

委員：入れ替えというか書き換えというか、パネル作ったりタペストリー作ったりするっていうのはそこだけで完結してしまう。というのは、常設展って今、今おっしゃったように、10年なり20年ずっともつものなので、おそらくここを建てる時とかは中身を外部の者に検討してもらってたんじゃないかと思うが？リニューアルの検討は中（職員）だけでやったのか。

事務局：職員でおこなった。

委員：いや、せっかくこの場合は運営の教育委員会、運営協議会なので中身の検討の場ではないのかもしれないんですけど。いや僕らはもらえないけどちょっと何かお金なしでも外部の人に見てもらったりっていうことは、やる予定はないのかなと思ひまして、いや、ですなんかその責任が、1回作ったらねずっといる。そこにパネル10年後にまた戻ることがあるので、今のね横山5分とることについてっていうのは、管内だけで検討するのでもいいのかなって今ちらっと思って、例えば僕は今の前のときも子供歴史文化作るときなんかは中身も全部外の人にチェックもしてもらって、当然自分で原稿を書きますけど。外部の委員の人たちみんな見ってもらってるので、それがこの場なのか、文化財の保護委員の先生方にもご協力いただくかわからないんですけど。やっぱり何か心配ならないかなと思って。なので事前にこんな構成しようと思うんですけどっていうのを、じゃあその候補とかの有無については、皆さんに見ていただくとかねなんか動いていただくぐらいのことはされた方が、はい。なんか後々いいんじゃないかなという気がしたんですけど。

事務局：ちょっと、なかなか皆さんにそういうお仕事をするのは、かなり心苦しくて、こちらの方で、極力対応するっていうことで今ちょっとやらせていただいています。

事務局：ちょっと先ほどおっしゃった通りパネルとかをまた皆さんに見ていただくのはまたちょっと検討したいと思います。

委員：それから、このスケジュール、イベントスケジュールが今、若いですけど、これの、あわらの真ん中、8月ぐらいから10月でありますけども。芦原石造狛犬展は展示等特別展示と両方にあると。

事務局：特別展示室を使います。まず同じ特別展の中で、なんですけどすいませんちょっと

これ、特別テキスト普通の展示ともに分けていたんですね。基本的には同じっていう全体の一環の中身で、ここにも一応掲示しますっていうことで、今回特別法には、県指定2件。

委員：イベントメニューについて、未定とか、(仮) とかがかなり出てくるのが気にかかる。

ある程度、徹底していったら広報しないといけない。

事務局：3月までに固めて、来年度4月からのイベントメニューというものを配りたい。

委員：確定していく作業は3月までぐらいまでにして、印刷して皆に配るぐらいのものに、していかなければいけないのではないかな。

事務局：そのイベントの確定については、こちらの方の対応が不手際というか遅れがありまして、いろいろ確定していきたいというふうに思います。最近は印刷物よりも、データとかでの周知の方が多分皆さん見ていただけることもあったりしますので、こういったものも一応取れるようにできればしたいと考えている。あとは必ずホームページ上で催し物がいつ行われるというのはこういう一覧表で出すようにはしていきたいというふうに思います。

委員：講演や何かをやる際に、PRが足りないと思う。

委員：3月に新幹線がするまでの間、IKOSSAの1階ロビーを、金津まちなか創政会に渡してはどうか。そしてPRビデオを作らせて、そしてそれをここで流すと。

ほんで1回いいだけのお客さんじゃなしに、連続っていうことを考えれば、毎週日曜日なら日曜日のときに、こういうイベントをしますよっていうところまで、必ず創政会を巻き込んで行ったほうがよい。語りべとしてやるならば、そういうのを活用すべきでないかな。

委員：このイベントメールについて。芦原温泉駅舎のところに、置くところがいっぱいあると思うので、現在どんなイベントをやっているのか配布物を置いたほうがいい。そういうことを地道にやっていくということで資料館を知ってもらおう。